



当社は、HS財団の動物実験第三者認証施設です

## ミニブタにおける心血管系評価

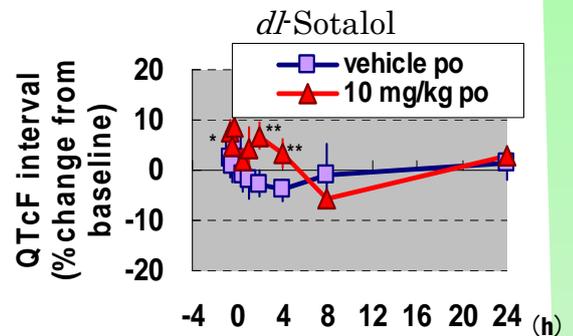
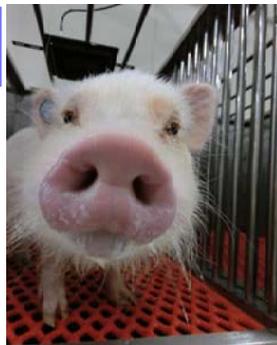
NBRではミニブタを用いた一般毒性試験や安全性薬理試験における心血管系評価を強化しています。テレメリー法による血圧、心電図評価、ホルター心電図による不整脈解析、スカラー心電図による正確な波形計測を、目的に合わせて選択いただけます。

ミニブタ試験での投与経路：経口、経皮、皮下、静脈内など

### テレメリー法による評価

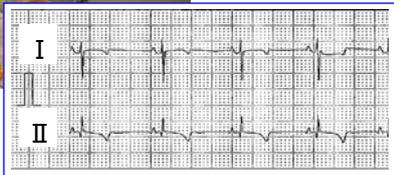
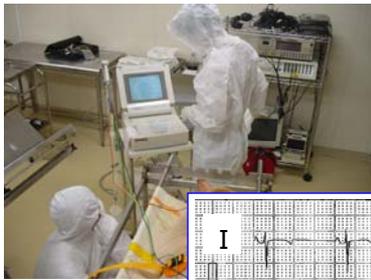
**特長**：無拘束で血圧、心電図の連続測定を実施します。

**評価項目**：血圧（収縮期、拡張期、平均血圧）、心拍数、心電図（PR間隔、QRS持続時間、QT間隔、QTc）



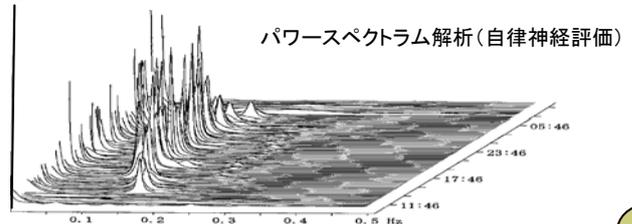
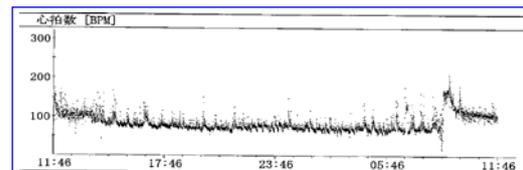
### スカラー心電図による評価

**特長**：6つの誘導の心電図波形を正確に計測します。



### ホルター心電図による評価

**特長**：無拘束で心電図（2つの誘導）を連続測定して、不整脈の定量評価、パワースペクトラム解析で自律神経の評価を行います。



### 佐部利 典彦のアートギャラリー(69)

岐阜県出身(1969~)

タイトル: danccinng with circle



#### 作者の言葉

この作品はアフリカ太鼓の音や踊りに合わせて、ライブで制作した作品です。いつのまにか、太鼓の音にまきこまれ、演奏者や踊り子の人たちと気持ちを通じあえた気がしました。作品のイメージはその音からもらったインスピレーションです。

段ボールにポスカとアクリル絵具、 サイズ 180cm×540cm

#### お知らせ

第87回日本感染症学会学術講演会・

第61回日本化学療法学会総会 合同学会

会期: 2013年6月5日(水)~6日(木)

会場: パシフィコ横浜(横浜市西区みなとみらい1-1-1)  
学会発表を行います。

第28回国際化学療法学会

会期: 2013年6月5日(水)~7日(金)

会場: パシフィコ横浜に於いて企業ブース展示いたします。  
是非、お立ち寄りください。

# 第40回日本毒性学会学術年会 当社発表演題一覧

会期:2013年6月17日(月)~19日(水)

開催場所:幕張メッセ 国際会議場

〈ワークショップ〉 腎毒性評価の新規手法:その基礎から臨床応用へ 第3会場:201

発表日時:6月17日(月) 9:00 ~ 12:00 演題番号:W1-2

演 題:ラット急性及び慢性腎障害モデルにおける新規腎毒性バイオマーカーの解析

演 者:杉浦 孝宏

〈一般演題〉 ポスター展示会場:コンベンションホールA

発表日時:6月17日(月) 質疑応答:16:00 ~ 17:00 演題番号:P-53

演 題:CT撮影装置を用いたミニブタの体表面積の計測

演 者:伊藤 格

発表日時:6月18日(火) 質疑応答:16:00 ~ 17:00 演題番号:P-72

演 題:カナマイシン反復投与におけるミニブタの聴性脳幹反応(ABR)による聴覚機能評価

演 者:安田 俊一

発表日時:6月18日(火) 質疑応答:16:00 ~ 17:00 演題番号:P-79

演 題:MRSA感染解析に有用なマウス易感染モデルの確立

演 者:佐久間 隆介

発表日時:6月18日(火) 質疑応答:16:00 ~ 17:00 演題番号:P-122

演 題:NIBS系ミニブタを用いた胚・胎児発生毒性試験に関する基礎データ

演 者:三輪 洋司

発表日時:6月18日(火) 質疑応答:16:00 ~ 17:00 演題番号:P-123

演 題:NIBS系幼若ミニブタを用いた反復経皮投与毒性試験の試み

演 者:長瀬 孝彦

発表日時:6月18日(火) 質疑応答:16:00 ~ 17:00 演題番号:P-124

演 題:皮膚反応の肉眼観察における相対的数値化の試み-3

演 者:山田 恭史

## 『心の絆 - その69 - 』

物事には全て最初と最後がありますが、この「心の絆」のコラムは、著者である私の定年退職に伴い、この69号が最終になります。6年近くに亘って拙い想いを記し続けてきました。その中で一貫した姿勢として、人の生きる意義や幸福について追い求めてきたつもりです。私は団塊の世代の1期生(1947年生まれ)です。同級生の約半数が中学卒で就職し、家計を助けるために15歳で自立していった時代と現在の日本は比べる物差し(ものさし)が違うほど豊かになりました。小さい頃、ご馳走だった料理が今は日常いただけるようになりました。家電、自動車、住居、携帯電話などなど、物質的には数え切れない豊かさや便利さを得ました。私が携わってきた医療面に目を向けると、私の生まれた1947年の平均寿命は50歳(男女平均)でした。それが今や83歳です。私が生きてきた65年間に、なんと33歳も延びました。本当に感謝です。しかし、こうした物質的な豊かさや長生き出来るようになったことと、人への尊厳や幸福感が平行してきたかと言うと、残念ながら、ずっと遅れている、ズレている、忘れてきた、重点にしてこなかったと評価せざるを得ないと思います。その原因を、懐かしい通信簿で例えると、算数、国語、理科などの点数にほとんどの人の目が行き、右側のページにあった主体性、自立性、責任感、協調性、挨拶が出来る、人と仲良く出来るなど人格の基本を形成する項目に余り目を向けてこなかった戦後の家庭教育、学校教育、社会教育に大きな問題があったように思います。そして、就職難、労働者の三分の一が非正規社員、高い未婚率や離婚率、少子化、家庭崩壊、老々介護、孤独死、限界集落などなど、現世相で見られる歪みを生み出してきたと思います。これらは全て人間の不完全さに起因しています。でも、この不の部分の部分は気がつけば、少しずつ取り戻せます。まずは、私たち一人ひとりが人の生きる有様(ありよう)を意識して、身の回りの手の届くことから、家庭や会社で実行していこうではありませんか。幸せは心の外にはなく、内にあります。そして、その幸せは物心両面の豊かさが伴ってこそ得られるものです。皆様の日々が少しでも心豊かな時間の多いことを祈念して最終稿とします。長い間ありがとうございました。